

会議記録

名 称	令和2年度 第1回 中央区子ども・子育て会議	
開催年月日・場所	令和2年7月16日（木） 午後6時30分から 京橋プラザ区民館 多目的ホール	
出席者	委員	大竹智（会長）、新藤こずえ（職務代理者）、渡邊浩志、埴佳生、小林英好、高梨明美、石黒公子、太田禎子、丹羽亮介、堀越千代、松本紗智、藤丸麻紀、太田明実、関屋衣江、箱守由記、田中智彦、山本光昭、生島憲
	区側出席者	福祉保健部子育て支援課長 福祉保健部保育課長 福祉保健部副参事（保育指導・特命担当） 福祉保健部子ども家庭支援センター所長 教育委員会事務局庶務課長 教育委員会事務局学務課長 教育委員会事務局指導室長
配布資料	資料1-1 待機児童の現状（令和2年4月1日現在） 資料1-2 子ども・子育て支援事業計画に基づく保育定員、保育ニーズ等の現況について 資料1-3 学童クラブの利用状況（令和2年4月1日現在） 資料1-4 子どもの居場所「プレディ」利用状況（令和2年4月1日現在） 資料2 主な事業の量の見込みと確保方策の進捗状況管理（令和元年度分） 資料3 確認対象施設の利用定員一覧 資料4-1 区立桜川保育園の改築 資料4-2 令和元年度巡回指導等実績 資料4-3 幼児教育と小学校教育における接続をさらに深めるために	
議事の概要	1 開 会 2 新委員紹介・事務局紹介 3 議題 （1）中央区の子育て支援事業の状況について （2）第一期中央区子ども・子育て支援事業計画の進捗状況の管理について ・主な事業の量の見込みと確保方策の進捗状況管理（令和元年度分） （3）子ども・子育て支援法に基づく意見聴取 ・令和2年10月開設予定の認可保育所の利用定員について （4）報告事項 ・区立桜川保育園の改築について ・保育の質の向上に向けた取組等について ・その他 4 閉 会	

令和2年度第1回中央区子ども・子育て会議 会議録（要旨）

令和2年7月16日（木）

午後6時30分から

京橋プラザ区民館 多目的ホール

1 開 会

2 新委員紹介・事務局紹介

3 議 題

（1）中央区の子育て支援事業の状況について

事務局から資料1-1、1-2、1-3、1-4について説明が行われた。

堀越委員 資料1-1について、居宅訪問型保育事業、期間限定型保育事業利用児童は、待機児童数には含まれていないのか。

石戸保育課長 待機児童数には含まれていない。

堀越委員 その児童たちは待機児童ではないという認識か。

石戸保育課長 待機児童の算定方法として、国の基準で除外してよいということで、算定していない。

堀越委員 居宅訪問型保育事業と期間限定型保育事業をこの4月から利用している児童数を教えてほしい。

石戸保育課長 期間限定型保育事業は、新設園が2園、それぞれ定員が3人ずつで6人の利用となっている。居宅訪問型保育事業（待機児童向け）は、昨年10人から今回20人に定員拡大し、4月スタート時17人が入所した。

大竹会長 資料1-2の3の認証保育所定員絞込み等の絞込みについて、説明をお願いしたい。

石戸保育課長 認証保育所は、定員数はあるが、年度当初若い保育士が多いため、定員いっぱいのが受入れが最初は難しいということで、スタート時は枠を埋めていない状況が見受けられる。

大竹会長 絞り込んだが、途中から人数が増えることもあるか。

石戸保育課長 そのとおりである。その後、安定してくるようであれば、保育の定員枠が埋まるような状況で対応している。

松本委員 資料1-1で書かれていた居宅訪問型保育事業は、資料1-2の3には書かれていない。それは別枠だからか。

期間限定型保育事業の6人は書かれている。

石戸保育課長 居宅訪問型保育事業の待機児童は、認可で定員となっているため、待機児童に記載していない。

期間限定型保育事業は、定員としてカウントしてないため、記載をしている。

松本委員 先ほど、居宅訪問型保育事業と期間限定型保育事業は、待機児童としてカウントしていないと言っていたが、説明いただいてよろしいか。

石戸保育課長 資料1-1の最下段に記載があるが、居宅訪問型保育事業（待機

児童向け)は拡充のため、定員の339人に拡大した中の内数になっているので、定員数としてカウントしている。

資料1-2の3の下段は、待機児童数の内訳のため、記載はそれぞれ異なる表記としている。

- 松本委員 一番左側の保育のほうに入っているということか。
- 石戸保育課長 そのとおりである。
- 丹羽委員 令和2年4月1日現在の報告をしてもらったが、計画比、ニーズ、需要量は、結局当たっていたのか。実際の量の見込みや実績値が今まで出していた計画と比べてどうだったのか伺いたい。
- 石戸保育課長 従来の第1次の計画について、定員としてはで計画量を満たしていなかった状況になっている。そういった意味で、まだまだ待機児童数は解消されてない。
- 丹羽委員 申込み件数が事前の読みと比べて多かったのか、予想どおりだったのか。
- 石戸保育課長 乳幼児人口と保育ニーズ、定員については、いずれも計画を下回っている。

(2) 第一期中央区子ども・子育て支援事業計画の進捗状況の管理について
事務局から資料2について説明が行われた。

- 堀越委員 27ページの地域子育て支援拠点事業の実績について、需要量のところの計画比較という数字が大きいが、これの背景を教えてください。
- 阿部子ども家庭支援センター所長 令和元年度は3月からコロナの関係で閉めていたので、あかちゃん天国の利用者がその分、1か月分なかったところが一番大きいと考えている。
- 堀越委員 そのほか若干減る要因として、今まで来ていたお子さんたちが1年上がって保育園に入れたということで、あまり来なくなった方が何人かいるというのは聞いている。
- 堀越委員 年度途中で保育園に入った方は何人いるのかというと、万単位にはならないと思うので、量の見込みを、計画を立てるときに精査すべきだと思う。
- 大竹会長 17ページの幼稚園の預かり保育も3,000とか2,000という数字があるので、当初の予定と実績が違っていたということが結果として出ているが、そういった背景など、何か分かれば教えてほしい。
- 植木学務課長 数字の出し方が、30人の定員で、年間240日を掛けているので、7,200人になっている。その中で稼働率も、60%ぐらいを推移している。園にもよるが、大体60%ぐらいというところで、需要数が割とそのところまでいってないというところがある。また、コロナの関係等もあり、通常よりも人数が減っているという形になっている。
- 大竹会長 延長保育事業等々も若干減っているところがあるとすると、この2月、3月辺りからコロナの影響で利用を控えたということが、当初予定していたものよりも少なかった要因として考えられるのではないかとこのところか。
- 新藤職務代理者 17ページの預かり保育で、利用しているのは半分ぐらいだから、読みがどうなのかという指摘はそうだと思う。ただ、19ページの一

時預かり保育、これを保育園のほうで見ると、あまりずれがない。

つまり、幼稚園での預かり保育がニーズに合っていないか、預けられるような仕組みになっていない。19ページのほうは同じ一時預かり保育でもかなり利用されているということを考えると、幼稚園での預かり保育と19ページの保育園での一時預かり保育はかなりニーズが異なっている。そのために利用されてないと思ったため、利用者の傾向というのが分かれば知りたい。

植木学務課長

さらに中央等は一般の方が利用し、幼稚園の預かり保育はその園の子どもが利用する。

そういった中で出し方として、それぞれ単位の中でやっているというところで、稼働率が100%を満たさない形になっているので、幼稚園の一時預かりの需要数が少ないようには見えるが、利用として減っているわけではない。

大竹会長

20ページの点検・評価のファミリー・サポート・センターのところで、「新たに送迎活動専門の提供会員養成を開始し、4名の提供会員が登録した」ということで、中央区として何か公募したのか。

箱守委員

保育園からお稽古の送り迎えのような活動が最近特に増えていて、今コロナの時期で活動はほとんどないけれども、預かるよりもそういった活動のほうは最近は増えている。事前研修みたいなことも、送迎に特化した提供会員さん向けの研修で図ったところだが、あまり効果がなく、4名しか応募していただけなかった。周知の方法も難しい。

大竹会長

送迎というと、ある区では提供会員に送迎をお願いされて、私たちは預かるということをやりたいのに、ニーズは送迎のため、辞めていきますという人たちがいた。この前の箱守委員の話だと、その送迎を2年、3年、4年、同じ子供をやっていく中で、送迎の期間中にお話をして、子供の成長がそこで見られたり、提供会員としての喜びもそこにあるんですという話があって、そういったところが広く、提供会員になりたいというふうに出てくればいいなと思った。今回、中央区として、送迎でも4名の方はそういった活動をしたいというふうに出てきている。

箱守委員

中央区の私の周りでも、お預かりするのはすごくハードルが高いけれども、送迎だったらというような民生委員の仲間も一生懸命勧誘しているが、預かるよりも送り迎えはちょっとハードルが下がるかなと。ニーズに合うかなというところで、一生懸命働きかけは続けたいとは思っている。

大竹会長

活動としては30分とか1時間単位か。

箱守委員

1時間からの活動になるので、実質30分でも1時間の利用料になる。

(3) 子ども・子育て支援法に基づく意見聴取

事務局から資料3について説明が行われた。

大竹会長

令和2年10月開設予定の認可保育所の利用定員ということで、2か所で72名と80名、152名の利用定員を増加して、中央区としては進めたいということである。

(4) 報告事項

事務局から資料4-1、4-2、4-3について説明が行われた。

- 松本委員 資料4-3について、これはいつから実施されるのか。
- 中山指導室長 これは指導資料のように考えればいいと思うが、それぞれの幼稚園、小学校、保育所には配られていて、今後、交流活動等をしていく際の参考にしてほしいというものである。
- 松本委員 このような状況下の場合はどうのような指針を掲げているのか。
- 中山指導室長 本来、連絡会等が例年行われているが、今年は教員等を集めることができなかつたため、それぞれの園や学校に配布し、活用してくださいというようにしている。
- 松本委員 分かつた。これだけではないかもしれないが、こういったミーティングとか、実際に顔合せて話する機会というのはなかなか難しいかと思うが、リモートとか、そういったのを活用して連携を図る計画というのはいかがか。
- 中山指導室長 手段の一つとして当然考えているため、それができる環境にある園同士であれば、できるかと考える。
- 箱守委員 今の続きで何うが、どこの園と連携するかとか、幼稚園と連携するかということは、それぞれ自分たちで連絡を取ることか。グループが決まっているとかがあるのか。
- 中山指導室長 グループは大体決まっている。今回は資料を送付することしかできなかつたが、連絡会の資料の中で、実際の構成に基づいて、グループごとに分かれて協議をするということを、最初の会としてやっている。その後は、さらに細かいところで地域ごとに分かれて、研修会であるとか連絡会を、地区ごとにする形を取っている。
- 4 閉会
- 大竹会長 3年間にわたりまして本当にありがとうございました。
以上で、令和2年度第1回中央区子ども・子育て会議を終了する。